一般質問

周産期喪失におけるグリーフケアについて



北原　裕子 議員

質問：産後ケア事業の中のグリーフケアの位置づけ、ピアサポート分かち合い団体との連携状況について伺います。

答弁：産後ケア事業を平成29年度から開始し、令和７年４月の改正により、利用者の負担額を軽減するとともに、訪問型を導入しました。流産や死産を経験された方が乳幼児と同じ場所でのケアを受けることに精神的な負担を感じる可能性があることから、産後ケア事業を訪問型で対応可能な施設を確保し、流産や死産を経験された方が自宅でサービスを受けることが可能な体制を整え、適切な配慮と個別対応を実現しています。また、本市では、助産師が代表となり設立された、ピアサポート団体である「カーネーションの会」と連携し、市の広報やホームページを通じて、その開催情報を周知しています。

質問：生きるために必要なピアサポート団体を、那須広域で支援する考えはないか伺います。

答弁：那須地区広域事務組合と協議し、那須塩原市や那須町の意見なども聞きながら、支援について考えていきます。

相馬市長二期目就任挨拶の内容について



齋藤　藤男 議員

質問：歳入の確保、歳出の削減では市民の幸せを生まないのではないか伺います。

答弁：適切な歳入の確保と歳出の削減は、将来にわたって市民生活を守り抜くために必要な手段であると考えています。

質問：定住促進を目指した空き家の活用とは具体的にどのような方法か伺います。

答弁：空き家等情報バンク「とちぎ空き家サイト」などで広く情報発信を強化していきます。

質問：大田原市産の米の生産について、今後どのようなビジョンを持っているのか伺います。

答弁：関東有数の米どころであり、食味についても高い評価を得ています。この良質な米の生産を維持するため、関係機関と連携して需要に応じた安定生産を支援していきます。

質問：肥料も農薬も機械も全て高くなっているが、米の値段は今年は下がり、来年も下がるとなると、営農を続けていけないのではないかというところで、市としては何かできることはないか伺います。

答弁：大田原市産の米をブランド化していく方策を農業者とよく相談して、考えていかなければならないと思っています。